

第 95 回 幹 事 会

平成22年4月22日

日 本 学 術 会 議

第95回幹事会議事次第

日時：平成22年4月22日（木）14：00

Ⅰ 非公開審議事項

1 委員会関係

提案1 国際委員会における小分科会委員の決定

提案2 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定等

提案3 持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築委員会の設置及び設置要綱の決定

提案4 自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会の設置及び設置要綱の決定

2 外部委員関係

提案5 科学技術振興機構科学コミュニケーション推進委員会委員の就任

3 その他

Ⅱ 審議事項

1 提言等

提案6 提言「日本の子どものヘルスプロモーション」

2 団体等の指定

提案7 日本学術会議協力学術研究団体の指定

3 地区会議関係

提案8 平成22年度各地区会議事業計画

4 シンポジウム等

提案9 日本学術会議・機械系学協会合同シンポジウム「科学・技術駆動型イノベーションに向けて：機械工学コミュニティからの発信」

提案10 公開シンポジウム「2010年度史料保存利用問題シンポジウム」

提案11 日本学術会議中部地区会議学術講演会

提案12 総合工学シンポジウム

提案13 「場の感性」の蘇生に向けて

提案14 「未来を開くフロンティア人工物の展開と課題」

5 後援

提案15 国内会議

提案16 国際会議

Ⅲ その他

資料2

第95回幹事会（4月22日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	鈴木 興太郎
副会長	唐木 英明
第一部 部長	広渡 清吾
第一部 幹事	木村 茂光
第二部 部長	浅島 誠
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ
第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	永宮 正治

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 審議付託等	1
3 委員会委員の辞任	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	2
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	3
5 課題別委員会の開催とその議題	5
6 総合科学技術会議報告	6
7 慶弔	6

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4月5日(月)	津村政務官との意見交換会	金澤会長、鈴木副会長、唐木副会長、広渡部長、浅島部長、岩澤部長、竹林局長、綱木次長
	日本学術会議会長と関係記者会との懇談会	金澤会長、広渡部長
4月6日(火) ～8日(木)	G8学術会議(オタワ)	唐木副会長
4月8日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
	「日本の展望－学術からの提言2010」の川端内閣府特命担当大臣(科学技術政策)への手交	金澤会長、竹林局長
4月12日(月)	津村政務官との会談	金澤会長、竹林局長
4月15日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
4月21日(水)	日本国際賞授賞式	唐木副会長、竹林局長、綱木次長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
京都大学原子炉実験所運営委員会委員候補者の推薦	京都大学原子炉実験所長	総合工学委員会

3 委員会委員の辞任

- 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP 合同分科会 MAHASRI 小委員会
山中 大学(平成22年3月18日付)
- 国際人権ネットワーク対応委員会 最上 敏樹(平成22年4月6日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) 第一部会（4月5日）
- (2) 第二部会（4月5日）
- (3) 第三部会（4月5日）
- (4) 第三部役員会（第21期・第17回）（4月8日）
 - ① 第94回幹事会提案について

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) 国際人権ネットワーク対応委員会（第2回）（4月6日）
 - ① これまでの経緯について
 - ② 委員の辞任について
 - ③ 委員長の選任について
 - ④ 今後の委員会の構成及び運営について
 - ⑤ その他
- (2) 日本の展望委員会 起草分科会（第15回）（4月6日）
 - ① 「日本の展望－学術からの提言2010」に基づく「勧告」（案）の検討
 - ② 「日本の展望－学術からの提言2010」のフォローアップについて
 - ③ 今後の進め方について
 - ④ その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) 科学者委員会（第23回）（4月5日）
 - ① 女性人材データベースについて
 - ② 学術刊行物の審査協力について
 - ③ 協力学術研究団体の指定について
 - ④ 協力学術研究団体の見直しについて
 - ⑤ その他
- (2) 地区会議代表幹事会（第2回）（4月6日）
 - ① 平成21年度業務報告及び平成22年度事業計画について
 - ② その他

(3) **国際委員会** (第7回) (4月7日)

- ①加入国際学術団体からの脱退について
- ②国際学術団体への新規加入の取扱いについて
- ③その他

(4) **科学者委員会** (第24回) (4月14日)

- ①平成22年度各地区会議事業計画について
- ②日本学術会議中部地区会議学術講演会の開催について

(5) **科学者委員会男女共同参画分科会** (第11回) (4月9日)

- ①「女子中高生夏の学校」の主催団体について

(6) **科学者委員会学協会の機能強化方策検討等分科会** (第9回) (4月15日)

- ① 学術団体のあり方に関するアンケート調査結果について
- ② 今後の意見表出について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) **哲学委員会** (第6回) (4月5日)

- ①「日本の展望：哲学委員会報告書」について
- ②特任連携会員の推薦について
- ③平成22年度シンポジウム開催について
- ④「国際学術交流分科会」副委員長について
- ⑤「哲学オリンピック」について
- ⑥その他

(2) **心理学・教育学委員会** (第4回) (4月6日)

- ①学分科会からの報告 ②心理学の大規模研究について
- ③日本心理学会との協働について

日本心理学会理事長 繁榊算男先生 (参考人) ④その他

(3) **社会学委員会福祉職・介護職育成分科会** (第9回) (4月17日)

- ①提言内容の検討について ②その他

第二部担当

(1) **臨床医学委員会医師の専門職自律に関する分科会** (第1回) (4月6日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出について
- ②今後の活動について ③その他

(2) **臨床医学委員会障害者との共生分科会** (第7回) (4月7日)

- ①木倉敬之氏の講演
- ②今後の委員会の進め方
- ③その他

(3) **農学委員会農業生産環境工学分科会** (第6回) (4月13日)

- ①遺伝子組み換え環境施設に関する提言等の検討
- ②環境教育に関する提言等の検討
- ③今後の分科会の推進方向について
- ④その他

第三部担当

(1) **電気電子工学委員会** (第4回) (4月6日)

- ①電気電子工学委員会各分科会の活動報告
- ②2010年度電気電子工学委員会の活動計画
(在り方の検討、各分野のロードマップ作成)
- ③5月28日開催シンポジウム「環境・エネルギーと電気電子情報技術」の
プログラム、宣伝状況について
- ④その他

(2) **総合工学委員会 ICO分科会** (第6回) (4月9日)

- ①公開シンポジウムについて
- ②その他

(3) **総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会** (第6回) (4月9日)

- ①話題提供：「米国におけるストックパイル化学兵器の廃棄処理について」
朝比奈 潔委員
- ②提言について (意見交換)
- ③安全工学シンポジウム、オーガナイズドセッションの企画について
- ④その他

(4) **総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会** (第3回) (4月13日)

- ①小委員会活動報告
- ②話題提供：野口 和彦氏 (三菱総研理事)
「安全目標設定の考え方」 予定
- ③安全の理念について討議 (とりまとめ 向殿 政男委員)
- ④「安全の理念まとめ表」の理論

- ⑤安全工学シンポジウム 2010 について
- ⑥その他

(5) **機械工学委員会ロボット学分科会** (第4回) (4月13日)

- ①将来のロボット学の展望について
- ②シンポジウムについて
- ③その他

(6) **材料工学委員会材料構造化コンバージング・テクノロジー分科会** (第2回)
(4月14日)

- ① シンポジウム後の経過説明
- ② 総合科学技術会議から付託された調査・分析
「第3期科学技術基本計画のフォローアップに係る調査研究」の結果
(文部科学省科学技術政策研究所 桑原総務研究官)
- ③ 分科会報告に向けての検討状況
- ④ 分科会提言への個別事項の確認
- ⑤ 今後の進め方について
- ⑥ その他

(7) **総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会**(第7回)(4月21日)

- ①「知の統合体系化小委員会」からの報告
- ②「知の統合推進小委員会」からの報告
- ③「知の統合シンポジウム」の企画に関して
- ④ その他

(8) **総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 心と脳など新しい領域検討小委員会** (第3回) (4月22日)

- ①計算科学シミュレーションと工学応用分科会、他の小委員会の状況
- ②話題提供
北岡哲子氏(東工大):癒しの工学の提唱
小泉英明氏(日立製作所):応用脳科学による理工学と人文・社会科学の架橋・融合
- ③その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) **大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会拡大役員会** (第7回) (4月12日)

- ① 共催シンポジウムについて
- ② その他

(2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討分科会(第15回)・日本の展望委員会 知の創造分科会(第13回)合同分科会(4月16日)

① 報告書案について

② その他

6 総合科学技術会議報告

1. 総合科学技術会議有識者議員会合

4月8日 ＊会長出席

4月15日 ＊会長出席

4月22日 ＊会長出席予定

7 慶弔

○ ご逝去

星野安三郎(ほしのやすさぶろう) 88歳 3月13日 第13～14期会員
立正大学名誉教授、東京学芸大学名誉教授

木下 俊郎(きのしたとしろう) 79歳 4月13日 第15～16期会員
北海道大学名誉教授

審 議 事 項

		頁
II 審議事項		
1 提言等	提案6 提言「日本の子どものヘルスプロモーション」	1
1 団体等の指定	提案7 日本学術会議協力学術研究団体の指定	2
2 地区会議関係	提案8 平成22年度各地区会議事業計画	3
3 シンポジウム等	提案9 日本学術会議・機械系学協会合同シンポジウム「科学・技術駆動型イノベーションに向けて：機械工学コミュニティからの発信」	5
	提案10 公開シンポジウム「2010年度史料保存利用問題シンポジウム」	7
	提案11 日本学術会議中部地区会議学術講演会	9
	提案12 総合工学シンポジウム	10
	提案13 「場の感性」の蘇生に向けて	12
	提案14 「未来を開くフロンティア人工物の展開と課題」	14
4 後援	提案15 国内会議	16
	提案16 国際会議	17

6	
幹事会	9 5

提 案

提言「日本の子どものヘルスプロモーション」

- 1 提 案 者 健康・生活科学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「日本の子どものヘルスプロモーション」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

7	
幹事会	95

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 大学美術教育学会
- ・ 日本描画テスト・描画療法学会

- 指定することを適当と認めない。

(申請団体名)

国際生命情報科学会

理由：学術研究団体の機関誌の大部分が大会要旨集となっており、日本学術会議協力学術研究団体の指定に係る必要な要件及び手続2(4)に掲げる学術に関する機関誌の基準のうち①「人文科学、社会科学又は自然科学に関する学術の研究発表及び議論を主たる目的とするもの」に該当しないため

(参考)

団体の概要

- ・ 大学美術教育学会
美術・芸術教育に携わる者すべてが交流・連携し、理論研究と実践研究の質を高め、日本社会の中で美術・芸術教育の発展に努めることを目的としている。
- ・ 日本描画テスト・描画療法学会
描画による診断と治療の研究を促進し、その応用の発展に奇与することを目的としている。

8	
幹事会	9 5

提 案

平成22年度各地区会議事業計画について

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり決定すること。
- 3 提案理由 日本学術会議地区会議運営要綱第7第1項の規定に基づく
各地区会議の事業計画原案を、同第2項に基づき整理した
ので提案するものである。

【参 考】

- 日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

（事業計画）

- 第7 各地区会議は、年度当初において当該年度における事業計画案を策定し、科学者委員会に提出しなければならない。
- 2 科学者委員会は、各地区会議の原案に基づき事業計画を整理し、幹事会の議を経て決定する。

平成22年度各地区会議事業計画（案）

平成22年 4 月

地区会議名	事業名	開催時期・場所	地区会議事務局
北海道	- 第1回地区会議 - 地区会議ニュースの発行（No.43） <u>第1回サイエンスカフェ</u> - 第1回<u>学術講演会</u>等 <u>第2回サイエンスカフェ</u> - 第2回<u>学術講演会</u>等 - 第3回地区会議	平成22年 4月（予定）（北海道大学） 5月 8月（予定）（未定） 9月（予定）（未定） 12月（予定）（未定） 平成23年 2月（予定）（未定） 3月（予定）（北海道大学）	北海道大学
東 北	<u>地域振興フォーラム</u> - 地区会議ニュースの発行（No.27） - 地区会議運営協議会	平成22年 （未定）（東北大学） 平成23年 （未定） （未定）（東北大学）	東北大学 （研究協力部）
中 部	- 第1回地区会議運営協議会 - 科学者との懇談及び<u>学術講演会</u> - 地区会議ニュースの発行（No.129） - 第2回地区会議運営協議会 - 科学者との懇談及び<u>学術講演会</u> - 第3回地区会議運営協議会 - 地区会議ニュースの発行（No.130）	平成22年 7月9日（福井大学） 同 上 11月（予定） 11月～12月（三重県） 同 上 平成23年 1月～2月（場所未定） 3月（予定）	名古屋大学 （研究協力部）
近 畿	<u>第1回学術講演会</u> <u>第2回学術講演会</u> - 地区会議運営協議会及び学術文化懇談会 - 地区会議ニュースの発行（No.19）	平成22年 10月31日（京都キャンパスプラザ） 未定 平成23年 2月～3月（未定） 3月（予定）	京都大学 （研究推進部）
中国・四国	- 第1回地区会議運営協議会及び公開学術講演会 - 第2回地区会議運営協議会 - 地区会議ニュース（No.42）	平成22年 11月27日（山口大学） 平成23年 （未定） 3月（予定）	広島大学 （学術室）
九州・沖縄	- 地区会議運営協議会 <u>サイエンスカフェ</u> <u>学術講演会</u>及び科学者懇談会 - 地区会議ニュースの発行（No.109）	平成22年 5月 6月25日（福岡市） （未定）（熊本大学） 平成23年 3月（予定）	九州大学 （企画部）

9	
幹事会	9 5

提 案

日本学術会議・機械系学協会合同シンポジウム 「科学・技術駆動型イノベーションに向けて：機械工学コミュニティからの発信」 の開催について

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 機械工学委員会機械工学企画分科会
2. 共 催： 社団法人可視化情報学会，社団法人空気調和・衛生工学会，社団法人計測自動制御学会，社団法人自動車技術会，社団法人精密工学会，ターボ機械協会，社団法人日本音響学会，社団法人日本ガスタービン学会，社団法人日本機械学会，日本計算工学会，社団法人日本原子力学会，社団法人日本航空宇宙学会，社団法人日本材料学会，社団法人日本船舶海洋工学会，社団法人日本塑性加工学会，社団法人日本伝熱学会，社団法人日本トライボロジー学会，日本燃焼学会，日本ばね学会，社団法人日本マシニングエンジニアリング学会，社団法人 日本冷凍空調学会，社団法人日本流体力学学会
3. 日 時： 平成22年6月25日（金）13時30分～17時
4. 場 所： 日本学術会議講堂
5. 委員会等の開催：機械工学企画分科会
6. 開催趣旨：
21世紀の機械工学のミッションは、科学の共通課題「社会のための科学・技術」への貢献であり、特に、「人と社会を支える機械工学」として、環境制約、資源制約の下で、安心安全で豊かさの感じられる持続的な社会を構築するための具体的な方策を呈示することである。すなわち、あらゆる生産・消費活動において、低炭素化に向かう道筋を誘導せねばならず、また他の学術分野と広く協働して、目に見える具体的成果を生み出していく責務がある。グリーンイノベーション、ライフイノベーションを達成し、新たな産業を発展さ

せ、国際社会へ我が国の優れた製品や知識を提供できるようにすることが、活力ある知識基盤社会を我が国に実現するための方法である。こうした科学・技術駆動型イノベーションの創出において、機械工学の学術的、技術的な貢献が、そして機械工学の人材の活躍が極めて重要である。このような認識のもと、本シンポジウムでは、機械工学コミュニティから社会へ向けて、今後の基礎研究、応用研究の在り方について発信を試みるものである。

7. 次 第：

13:30 開会の挨拶 笠木伸英（日本学術会議機械工学委員会委員長）

13:40 基調講演 「社会的期待に応える科学技術研究に向けて（仮題）」

吉川弘之（JST 研究開発研究センター長）

14:20 報告 「機械工学の展望 2010」 笠木伸英（日本学術会議機械工学委員会委員長）

14:40 講演 1 「環境・エネルギー問題への提言」 日本伝熱学会，空調衛生工学会

15:00 講演 2 「ものづくり技術への提言」 精密工学会

15:20 講演 3 「モビリティ社会への提言」 自動車技術会

（永井正夫：日本学術会議連携会員）

15:40 講演 4 「豊かな生活への提案」 日本機械学会

16:10 パネルディスカッション：

モデレーター 岸本喜久雄（日本学術会議会員）

パネラー：基調講演者，講演者，産業界，学協会

16:50 閉会の挨拶 自動車技術会会長

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 申し込み方法・連絡先

申し込み方法

自動車技術会事務局で取り纏め

連絡先

東京工業大学大学院理工学研究科機械物理工学専攻

岸本喜久雄 kkishimo@mep.titech.ac.jp

10	
幹事会	95

提 案

公開シンポジウム「2010年度史料保存利用問題シンポジウム」の開催について

1. 提案者 史学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議史学委員会
日本歴史学協会史料保存利用問題特別委員会・国立公文書館特別委員会
2. 共 催 なし
3. 後 援 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会
4. 日 時 2010年6月26日（土）午後1時30分～5時30分
5. 場 所 学習院大学 南3号館 201教室
6. 分科会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会を同日に開催予定
7. 開催趣旨

2009年7月に公布された「公文書管理法」は、現在2011年4月の施行に向けて、施行細則などの検討をおこなっている。内閣府にあって公文書管理法案の作成の中心におられた山崎日出男氏は、施行に向けた細則作成のためにも国立公文書館理事に出向され、種々の作業に邁進されている。2011年4月の施行までに、何をどう盛り込んでいくのか、報告と質疑は熱く語られるであろう。

国のレベルでは、法律が通りながら、地方自治体では財政再建に取り組む中で、逆風が公文書館に吹いている。大阪府では橋下知事が大阪府立公文書館に対して法律とは逆行する計画を進め、そのことが市にも影響を与えている。この間、大阪府立公文書館問題の改善運動に中心的に取り組んでこられた一人である佐賀朝氏に、現状と改善の方向について報告をして頂き、地方の現状を国の法律とも連関させて議論を行うことにしたい。

8. 次 第
開会挨拶 藤井譲治氏（京都大学大学院教授・付属図書館長、日本学術会議会員）

報告者 山崎日出男氏（国立公文書館理事）
「公文書管理法で何がどのように変わるのか」

佐賀 朝氏（大阪市立大学）

「自治体立公文書館の現状——大阪府・市公文書館の場合」

閉会挨拶 高埜利彦（日本歴史学協会会長、日本学術会議連携会員）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

1 1	
幹事会	9 5

提 案

日本学術会議中部地区会議学術講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議中部地区会議（共催：福井大学）
- 2 日 時 平成22年7月9日（金）13：00～15：30
- 3 会 場 福井大学 総合研究棟 I 13階会議室
（福井市文京3-9-1 文京キャンパス内）
- 4 次 第
 - （1）開会挨拶
福田 優 福井大学長
 - （2）日本学術会議第157回総会報告
巽 和行 中部地区会議代表幹事
 - （3）科学者との懇談
丹生 潔 中部地区科学者懇談会幹事長
 - （4）講演会の演題及び演者
 - ・講演「原子力の安全（Safety）、核不拡散の保障措置(Safeguard)と核セキュリティ（Security）をめぐる動向について」
広瀬 研吉 福井大学特命教授
 - ・講演「福井大学での原子力教育と研究」
竹田 敏一 福井大学附属国際原子力工学研究所長
 - （5）閉会挨拶
未 定

※ 金澤会長が、挨拶又は講演を予定。

1 2	
幹事会	9 5

提 案

総合工学シンポジウムの開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会
2. 共 催：日本工学アカデミー
3. 後 援：理学・工学系学協会連絡協議会
4. 日 時：平成 22 年 7 月 16 日（金）13.20-17.30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：総合工学企画分科会
7. 開催趣旨：総合工学とは、旧来の工学には見られなかった工学における横型分野であり、あらゆる工学体系や知識を総動員して設計・製造される人工物に関する分野である。この分野には極めて広い概念があり、既存の領域型分野とは自ずと異なった内容を包含し、工学全体の横断的課題および科学・技術全体に跨がる課題を扱うという特徴を有する。本シンポジウムでは、多くの課題を抱える未来社会に対して総合工学がいかにして貢献出来るかについて様々な面から議論する。

8. 次 第：

座長： 柘植綾夫

I 開会挨拶（13.20-13.30）

矢川元基（日本学術会議総合工学委員会委員長、東洋大学）

II 総合工学の展望（13.30-15.00）

- ・ 総合工学とは何か（仮題）（特別講演）
吉川弘之（日本学術会議連携会員、科学技術振興機構）
- ・ 総合工学と学協会（仮題）
後藤俊夫（日本学術会議第三部副部長、中部大学）
- ・ 総合工学委員会について（仮題）
矢川元基

（休憩） （15.00-15.15）

座長：石原 宏

III 総合工学の実践と連携（15.15-17.20）

- ・ 工学基礎
舘 暲（日本学術会議連携会員、慶応義塾大学）
- ・ 応用物理
荒川泰彦（日本学術会議会員、東京大学）
- ・ エネルギーと資源
山地憲治（日本学術会議会員、地球環境産業技術研究機構）
- ・ フロンティア人工物
久保田弘敏（日本学術会議連携会員、帝京大学）
- ・ 巨大複雑系社会経済システム
柘植綾夫（日本学術会議会員、芝浦工業大学）
- ・ 安全・安心・リスク
松岡猛（日本学術会議連携会員、宇都宮大学）
- ・ 討論

IV 閉会挨拶（17.20-17.30）

小舘香椎子（日本学術会議会員、日本女子大学）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先 総合工学委員会委員長 矢川元基

13	
幹事会	95

提 案

「場の感性」の蘇生に向けての開催について

1. 提案者 哲学委員会委員長、環境学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議 哲学委員会 芸術と文化環境分科会
環境学委員会 環境思想・環境教育分科会
2. 共 催： 富山県立立山博物館
3. 日 時： 平成22年7月26日（月）
4. 場 所： 富山県立立山博物館
5. 委員会等の開催：同日、哲学委員会 芸術と文化環境分科会を開催予定
6. 開催趣旨：

地球上のさまざまな「フィールド（自然と文化を包括した環境）に根ざした人間の感性と叡智」は、専門化され分断されてきた「学術の今」が、その全体性を取り戻すために、最も有効な手がかりのひとつである。そうした意味も含め、環境学委員会は、とりわけ日本の学術における「場の力／場の感性（センス・オブ・プレイス）」の重要性を、主に環境思想・環境教育分科会の活動を通じて確認してきた。そうしたなか、平成21年11月16日、哲学委員会・芸術と文化環境分科会との合同で開催した分科会に、報告者のひとりとして立山博物館館長の米原寛氏をお招きし、立山における独特な自然環境と地域の風土と一体となった同地の文化について理解を深めた。

このような合同分科会の活動を通じて、日本学術会議としてもこれからは活動の成果を、立山のようなわがくに独自の「土地の力／場の教化力」を借りて、より広く発信していくべきであろう、という考えに至った。

以上のような経緯から本公開講演会の企画は、その会場を立山山麓に求め「自然環境」と「芸術／文化／教育」といった営み相互の隔絶と繋がりをめぐる研究成果を、日本学術会議会員が立山山麓を訪れ、立山内外の「日本のフィールド」に根ざした専門家たち

の連携のもと、より多くの人々に向け、新たな形で広く発信することをめざしたもの。
環境思想・環境教育分科会と芸術と文化環境分科会をそれぞれ担当分科会とし、環境学
委員会と哲学委員会が合同で企画提案する講演会である。

7. 次 第

- ・ 13:00-13:10 挨拶と趣旨説明

前田富士男（日本学術会議会員・第一部会より／芸術学）

- ・ 13:10-13:30 問題提起：「場の力」

進士五十八（日本学術会議会員・第三部会より／環境学）

- ・ 13:30-14:10 セッション 1：

立山における「環境と文化」をめぐって

～環境思想と教育実践：統合の試み～ 米原寛（立山博物館館長）

コメンテータ：岩城見一（日本学術会議連携会員／美学）

- ・ 14:10-14:50 セッション 2：

聖地・芸術・身体 梅原賢一郎（京都造形芸術大学／美学）

コメンテータ：福本まあや（富山大学／舞踊）

- ・ 14:50-15:30 セッション 3：

環境と文化伝承 鬼頭秀一（東京大学／環境倫理学）

コメンテータ：佐伯安一（富山県民俗の会会長／民俗学）

<休憩>

- ・ 15:40-17:00 ラウンドテーブル：

「場の感性」（センス・オブ・プレイス）の蘇生に向けて

報告者：学術会議メンバー：第一部会／第三部会

参加者：富山大学ならびに富山在住の専門家（原口志津子他）

コーディネーター：鳥越けい子

（日本学術会議連携会員・青山学院大学／環境文化学）

◎ 講演会司会進行：小澤紀美子（東海大学／環境教育学）

◎ 上記次第については、午前中からの開催案も検討中。

◎ 前日の7月25日には「プレイベント」として、立山権現祭り（地元集落の山開き催事）の見学や、集落と博物館全体のツアー等を計画している。

8. 関係部の承認の有無：第一部・第三部承認

9. 申し込み方法：郵送とファックス（検討中）

連絡先：富山県立立山博物館 〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦畠寺 93-1

Tel. (076) 481-1216 Fax. (076) 481-1144

1 4	
幹事会	9 5

提 案

「未来を開くフロンティア人工物の展開と課題」の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会
地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会
2. 後 援：日本航空宇宙学会、日本船舶海洋工学会
3. 日 時：平成 22 年 8 月 26 日（木曜日）13：00 ～ 17：30
4. 場 所：
日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：（該当のある場合）
午前中にフロンティア人工物分科会を開催する。
6. 開催趣旨：

宇宙および海洋での活動は高真空、微小重力、高圧、高温、低圧、低温、遠隔、無人等の極限状態を開発・利用し人類の未来を切り拓くフロンティアに属し、第 3 期科学技術基本計画の中で 8 つの推進分野の一つと位置づけられている。これに社会基盤としての新しい航空、船舶システムを含めた航空宇宙・船舶海洋およびそれらに付随する先端的人工物を「フロンティア人工物」とし、その科学技術を「フロンティア人工物科学技術」と定義する。

この分野は、全地球的および地球外への輸送システムとしての航空宇宙・船舶海洋科学技術、地球のダイナミズムの解明を行なう地球と海洋の観測・探査、地球外フロンティア開拓を担う宇宙開発・探査を包含し、安心・安全で豊かな生活の実現とともに、現在地球が直面しているエネルギー・環境問題の解決にも深く関わり、人類の持続性確保に深い関連を有している。

フロンティア人工物分科会では、航空宇宙・船舶海洋の既存技術基盤を飛躍的に発展させるために、現状と将来の検討を行ってきた。この講演会ではこの議論を土台にし、一般の参加

者の意見も交えながら未来を開くフロンティア人工物の展開を考える。

7. 次 第：

13:00-13:10 開会挨拶 久保田弘敏(連携会員)

趣旨説明とこれまでの経過、現状の紹介

第一部 序論 人類の発展とフロンティア人工物

13:10-13:55 新しい地球像の探求 平 朝彦(会員)

深海底下の地球内部から宇宙空間に広がるフロンティアを探索することにより、地球・生命の新しい理解、そして人類の未来構築に貢献できる。

第二部 フロンティア人工物科学技術の役割と現状および重要課題

13:55-14:30 航空宇宙フロンティア技術の展望 中橋和博(連携会員)・的川泰宣(連携会員)

宇宙技術とその成果のレビューと今後の技術課題、政策的な要望も含む

14:30-15:05 船舶海洋フロンティア技術の展望 大和裕幸(連携会員)・柏木正(連携会員)

海洋技術とその成果のレビューと今後の技術課題、政策的な要望も含む

15:05-15:15 休憩

第三部 課題と提言

15:15-15:50 フロンティア人工物の課題 藤井孝蔵(連携会員)・湯原哲夫

国家の技術政策の手法、プロジェクトの建て方、プロジェクトの評価、リベラルアーツ型教育の取り入れ、博士課程学生の育成、人材育成など今後解決すべき問題を明確にする。

15:50-16:25 フロンティアを開く産業技術の展開 松尾亜紀子(連携会員)

航空宇宙産業、船舶海洋産業、通信産業などの基盤技術の展開と今後の方向について考える。

第四部 パネルディスカッション

16:25-17:30 パネルディスカッション 司会： 中須賀真一(連携会員)

これまでの報告に関する討論をおこない、今後何をしていくかのとりまとめ文書を作る。

メンバー：浅田正一郎、戸塚正一郎、浦環、柘植綾夫(会員) + 講演者全員

17:30-17:35 閉会挨拶 久保田弘敏(連携会員)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 申し込み方法・連絡先

参加者名、所属、連絡先住所、メールアドレスを下記まで、電子メールまたは郵送でお送りいただく。

郵送先：277-8563 千葉県柏市柏の葉 5-1-5 東大環境棟 272 号室 大和裕幸宛

電子メール：yamato@k.u-tokyo.ac.jp

1 5	
幹事会	9 5

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会第28回年次大会 ① 主催：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会 ② 期間：平成22年6月26日～27日 ③ 場所：国立京都国際会館	特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会理事長	第二部
第36回全国語学教育学会年次国際大会 ① 主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会 ② 期間：平成22年11月19日～22日 ③ 場所：愛知県産業労働センター	特定非営利活動法人全国語学教育学会代表者	第一部

1 6	
幹事会	9 5

提 案

国際会議の後援について

1 提 案 者 会 長

2 議 案 国際会議を後援すること。

3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の
行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、
国際委員会(主催等検討分科会)において審議を行ったところ、
適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

第11回国際フェライト会議

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：第11回国際フェライト会議 英文：The 11 th International Conference on Ferrits (略称：ICF11)						
開 催 時 期	平成23年11月14日～11月18日（5日間）						
開 催 場 所	奈良県（奈良県立新公会堂）						
主 催 団 体	社団法人 粉体粉末冶金協会						
共 催 団 体	なし						
協 賛 団 体	日本磁気学会、日本物理学会、応用物理学会、電気化学会、電気学会、電子情報通信学会、日本化学会、日本金属学会、日本セラミックス協会、American Ceramics Society, IEEE Magnetics Society						
母 体 団 体 等	和文：国際フェライト会議国際委員会 英文：International Conference on Ferrite International Committee						
参加予定者数 [参加予定国]	国外 100 人 国内 200 人 計 300 人 [23ヵ国／1地域]						
会 議 内 容	ウェルカムパーティー、特別講演、口頭発表、ポスター発表、日本伝統文化観賞の夕、武井賞授与式等						
会 議 議 事 録 等	学会開催の概要について事後報告する予定						
開催経費の財源 [募金団体]	<table> <tr> <td>参 加 費</td><td>17,800 千円</td></tr> <tr> <td>寄 付 金</td><td>11,000 千円</td></tr> <tr> <td>計</td><td>28,800 千円</td></tr> </table> （窓口となる団体名） （社）粉体粉末冶金協会	参 加 費	17,800 千円	寄 付 金	11,000 千円	計	28,800 千円
参 加 費	17,800 千円						
寄 付 金	11,000 千円						
計	28,800 千円						
申 請 者	社団法人 粉体粉末冶金協会 会長 高野 幹夫 (京都大学 物質－細胞統合システム拠点・教授)						
連 絡 責 任 者	第 11 回国際フェライト会議事務局幹事 松下 伸広 (東京工業大学 応用セラミックス研究所・准教授)						